



代表取締役
岡野 幸靖



岡野 智美



Builders Office kurayasu Co.,Ltd

株式会社 倉靖工務店

岡山県倉敷市木見 2157-1

URL : <https://kurayasu-kurashiki.com>

お客様目線に立って考え 末永く快適に暮らせる家を提案—— 満足いく家と一緒に作りたい

▶▶▶新築・リフォーム・リノベーションを手掛ける『倉靖工務店』。“お客様目線の提案”を通して、快適に暮らせる住環境をお客様と一緒にするのが同社のコンセプトだ。また、木材加工の確かな技術に定評があり、オリジナルチェアなど木材加工物の制作も請け負う。本日は、俳優の村野武範氏がそんな同社を訪問。岡野社長と奥様の智美さんにお話を伺った。

——早速ですが、岡野社長の歩みからお聞かせ下さい。

(幸) 大工だった父が、私が小学校低学年のころに他界し、母が女手一つで育ててくれました。私は、父のことをほとんど覚えていません。地元で父と同じ大工になれば、父のことを知る方々から父のことを教えてもらえるんじゃないか。父について知りたい気持ちから、大工を選んだんです。おじも大工をしており、「お前は頭が悪いから大工になれ」と勧められたのも一つの理由ですが(笑)。

——(笑)。社長は大工が向いていると適性を見抜かれていたのだと思いますよ。職人の修業は厳しいと聞きますが、修業時代はいかがでしたか。

(幸) 負けず嫌いなものですから、やるからには技術を早く習得して一人前の大工になりたいと考えていました。それで、目をかけて仕事を教えてもらえるよう、兄弟子より早く出勤して、社内の掃除をして道具も手入れし、人一倍働きました。そんな下積み時代が約10年続いたのでしょうか。給料が安かったの、夜はレストランでアルバイト。きつかった

ですが、そのアルバイトを通じた出会いが私にとって転機になりました。

——と、言いますと？

(幸) レストランに来られたお客様が、私が大工の修業中だと知り、「数寄屋造りの家を建てるが、その建築に携わって勉強しないか」というお話を下さったんです。建築を担当する工務店はすでに決まっております、私がそちらへ移れるようお客様が話を通して下さっていたので、工務店へ移りました。

——立派な大工になれるようチャンスを与えて下さる方と出会われたのですね。

(幸) 本当にありがたいことでした。その家が完成した後も、引き続きそちらの工務店でお世話になればと考えていたのですが、以前お世話になっていた工務店に戻ることになりました。倉敷美観地区の案件に携わることになったのですが、兄弟子が急逝したため、戻って来てくれないかと言われたんです。かつて10年にわたってお世話になった親方にも義理がありますから。その際、当時勤めていた工務店を辞めるつもりでいた私に、「籍を置いておいて、いつでも帰ってきたら

いい」と言って下さったんですよ。私は本当に人に恵まれていたと思いますね。それは、独立してからも同じです。倉敷美観地区の案件が終わった後、親方が背中を押して下さいだったので、個人事業主として独立・起業を果たしました。

——独立後も、人とのつながりに恵まれているとお感じなのですね。

(幸) ええ。親方のもとで仕事をしていた時のお客様が仕事を依頼下さったり、お客様が新しいお客様をご紹介下さったり。そうして今も、紹介で仕事をさせて頂いており、ありがたいことに手が回らずお客様にお待ちいただいている状態なんです。「待ってもいいから、岡野さんにやってほしい」——その一言が本当に嬉しくて、同時に感謝しかありません。

——待つでも社長に頼みたいというお客様がいることは、『倉靖工務店』さんにとって財産ですね。どういった点が信頼を得ているとお考えでしょう。

(智) お客様のご要望を聞いた上で、「自分だったら、こうする」という提案の仕方をするんです。「自分がその家で暮らしていくとしたら」とお客様の目線に立って提案していることが要因でしょうか。「使いやすくて、提案の通りに良かった」とお喜びいただけています。

——同じ目線に立ってアドバイスをいただけると、説得力もあります。要望や希



日本古来の伝統技法である、杉の板の表面を高温で焼き上げることにより、漆黒の黒色の表面は美しく、腐敗に強い100年以上の耐久性がある日本伝統の木材加工品「焼杉」。「倉靖工務店」の焼杉は評価が高く、カナダやフランスからその技術を学びに来る人もいます。



the works by KURAYASU

望が強いあまり現実的な頭が回らないこともあるでしょうから、お客様にとってもありがたいと思います。

(幸) メリットだけでなくデメリットも伝え、最後はお客様に決めていただき、決して押し付けけないことも大事。住まわれるお客様が主役であり、お客様の満足が何より大事ですから。ただ、「無理は聞くけど、無茶は聞きません」とお客様にはお断りをしています。「こんなはずじゃなかったのに」という想いはいただきたくありませんからね。対価として代金を頂戴して家づくりを担当させていただいたので、可能な限りお客様の要望を取り入れながら、目先のことだけでなく末永く快適に暮らしていただけるように導くことが私たちの責任だと思っています。

——これからも、そのスタンスで家づくりに関わって行って下さい。

(2019年12月取材)



▶▶▶伝統的工法でつくる「焼杉」

「焼杉」という、日本伝統の外壁材として知られる木材加工品がある。杉の板の表面を高温で焼き上げて炭素層を人為的に形成した木材加工品で、漆黒の表面の美しさはもとより、腐敗に強く耐久性は100年以上と言われる。「倉靖工務店」は、その「焼杉」を先人の技術と昔の伝統的なやり方で作り、仕上がりの美しさから注目を浴びている。まず、3枚の板を筒状に合わせ、鎌で板の角を開いて空気を送り込みながら、重なった板の角もまんべんなく焼く。筒の天地をひっくり返して全体的に焼いたら、筒内に水が多く入り込むよう水面に対して角度をつけて筒を素早く水に差し込む。一瞬で消化しなければ焼きムラができるため、素早さが求められる。水に浮いた筒を一回転させたらすぐに藁縄をほどき、筒をバラバラに。水から板を一枚一枚取り出し、端をびったり揃えて中表に重ねて、板の反りを防ぐために重しを置いて完成だ。手仕事で焼き具合を見ながら焼き、水に浸す工程では素早さが求められるため、仕上げは職人の腕に大きく左右される。同社がYouTubeにアップしている動画「伝統的な焼き板(焼杉)の作り方」を見て、遠くフランスやカナダからその技を学ぶために同社を訪れる職人もおり、世界に誇る技術がここにある。

村野 武範 (俳優)

「2019年10月に消費税率が引き上げられる以前にご依頼のあったお客様については、消費税8%でお仕事を受けていらっしゃるそうです。私が驚いていると、『こちらの都合でお待ちいただいている間に消費税が上がったのですから、お客様に増税分をご負担いただくのは違うと思うんです。当たり前のことですよ』と岡野社長は話されました。お客様に対して誠実であることがよく分かるお話ですね」

